

巻 頭 言



新年度、そして長崎でお会いしましょう。
New semester, and looking forward to seeing everyone in NAGASAKI.

学会連携委員会
委員長 近藤尚知
Domestic liaison committee
Chair Dr. Hisatomo Kondo DDS, PhD

新年度を迎えられ、桜の開花のごとく、会員の皆様が活躍されている様子が目に浮かびます。学会連携委員会の近藤尚知です。本誌の巻頭言執筆の機会をいただきましたこと、窪木拓男理事長、池邊一典編集委員会委員長に厚く御礼を申し上げます。

昨年は、2023年5月に『補綴歯科専門医』の広告が可能となり、それに呼応するかのように、新たな取り組みも始まりました。昨年度の学術大会では口腔内スキャナーやマイクロスコープの補綴処置への適用ならびにソフトティッシュ・マネージメントに関するハンズオン、そして10月に開催された第9回補綴歯科臨床研鑽会「プロソ'24」では、インプラント領域のリッジプリザーベーションに関するハンズオンも開催され、補綴歯科専門医としての臨床技術の領域拡大が図られてきました。今後も、国民が誰もがより高い水準の補綴歯科治療を受けられるよう、専門医の養成と臨床技術の向上のため、学会の事業も多様化していくことと思います。上記のように、会員の皆様にとっても補綴領域における変革の潮流が大きくなったことを感じた一年であったと思います。

学会連携委員会としては、他学会との連携強化、相互発展に務めてまいりました。馬場前理事長の時代に連携協定を結んだ日本臨床歯科学会（SJCD）とは、より強固な連携を確立するべく、2024年7月に開催された第133回学術大会でマイクロスコープを使用したハンズオンを開催し、2024年10月には名古屋で開催されたSJCDの合同例会で優秀な発表者に贈呈する『日本補綴歯科学会賞』を設定するなど、積極的に連携事業を推進してまいりました。さらに、窪木理事長が提言されてきた多職種連携を目指して、昨年の第133回学術大会では日本栄養治療学会（JSPEN）との連携協定を締結いたしました。今後は、学術交流を活性化させ、共同臨床研究の推進、両学会の専門知識の共有を通じて、国民の健康増進に貢献できるよう、連携推進活動を活発化していく予定です。

本年、5月に長崎で開催予定の第134回学術大会では、日本顎咬合学会と連携協定を締結し、本学会との共催でメインシンポジウムを開催する予定です。国内最大規模の臨床医の学会である日本顎咬合学会との連携協定は、新たな臨床的知見を得る多くの機会をもたらし、本学会員にとって非常に有意義なものとなると思われます。両学会相互の革新的発展を目標とし、連携の強化に取り組んでいきたいと思っております。

現在は、まもなく開催となる第134回学術大会における、3つの共催シンポジウム（日本臨床歯科学会、日本栄養治療学会、日本顎咬合学会）との開催に向け、学術委員会と連携しながら準備を進めております。本学術

大会は、『補綴の未来、歯科の未来。「不易流行（変わらないもの、変えていくもの）」』をテーマに、2025 年 5 月 16 日（金）～18 日（日）の 3 日間、出島メッセ長崎で開催されます。大会長の長崎大学村田先生をはじめとし、運営事務局の皆さまが、素晴らしい学術大会になるよう尽力されております。会員の皆様におかれましては、ぜひとも、お誘いあわせのうえご参加くださいますようお願いいたします。長崎でお会いできることを心より楽しみにしております。